

出雲商工会議所管内 業種別景況（令和4年4月～6月期）

《全業種》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年4～6月)と比べた 今期(令和4年4～6月)の状況				前期(令和4年1～3月)と比べた 今期(令和4年4～6月)の状況				今期(令和4年4～6月)と比べた 来期(令和4年7～9月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	40.7	23.7	35.6	5.1	45.8	25.4	28.8	16.9	13.8	36.2	50.0	△ 36.2
2 採算	32.2	40.7	27.1	5.1	25.9	50.0	24.1	1.7	7.0	47.4	45.6	△ 38.6
3 仕入単価	72.4	25.9	1.7	70.7	64.4	33.9	1.7	62.7	63.8	36.2	0.0	63.8
4 従業員数					10.3	82.8	6.9	3.4	3.4	96.6	0.0	3.4
5 資金繰り					6.8	78.0	15.3	△ 8.5	1.7	67.2	31.0	△ 29.3

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		22.0	42.4	35.6		-13.6		28.8	52.5		18.6	10.2		3.4

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	45.8	15.3	1.7	62.7	8 設備店舗の狭小・老朽化	3.4	6.8	11.9	22.0
2 大企業進出による競争激化	1.7	3.4	5.1	10.2	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	1.7	1.7
3 製品・商品単価の下落	0.0	1.7	0.0	1.7	10 事業資金の確保難	1.7	3.4	6.8	11.9
4 原材料高及び不足	22.0	33.9	6.8	62.7	11 需要の停滞	10.2	18.6	15.3	44.1
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	3.4	3.4	6.8
6 人手不足	10.2	3.4	11.9	25.4	13 その他	1.7	1.7	3.4	6.8
7 人件費の増加	3.4	1.7	6.8	11.9	無回答	0.0	6.8	25.4	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

《製造業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和3年4～6月）と比べた 今期（令和4年4～6月）の状況				前期（令和4年1～3月）と比べた 今期（令和4年4～6月）の状況				今期（令和4年4～6月）と比べた 来期（令和4年7～9月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	37.5	25.0	37.5	0.0	50.0	12.5	37.5	12.5	0.0	42.9	57.1	△ 57.1
2 採算	25.0	37.5	37.5	△ 12.5	42.9	42.9	14.3	28.6	0.0	57.1	42.9	△ 42.9
3 仕入単価	87.5	12.5	0.0	87.5	87.5	12.5	0.0	87.5	85.7	14.3	0.0	85.7
4 従業員数					0.0	87.5	12.5	△ 12.5	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り					25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	57.1	42.9	△ 42.9

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D・I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		12.5	25.0	62.5		△ 50.0		25.0	37.5		37.5	△ 12.5		12.5

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	75.0	0.0	0.0	75.0	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	37.5	37.5
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	25.0	25.0
4 原材料高及び不足	0.0	100.0	0.0	100.0	11 需要の停滞	12.5	0.0	25.0	37.5
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	12.5	0.0	0.0	12.5	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	12.5	12.5	無回答	0.0	0.0	0.0	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ペーパーレス化の促進による印刷物需要の減少。
 - ・原材料等の高騰による経費の圧迫。
 - ・部材の欠品、高騰。
 - ・コロナによるイベント中止のダメージ大。
- ・原材料高で粗利低下。仕入れ見直しも検討。
 - ・ネットショップを強化予定。
 - ・人手不足。
 - ・鋼材昨年12月の価格の2倍に値上がり。

《建設業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年4～6月)と比べた 今期(令和4年4～6月)の状況				前期(令和4年1～3月)と比べた 今期(令和4年4～6月)の状況				今期(令和4年4～6月)と比べた 来期(令和4年7～9月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	50.0	25.0	25.0	25.0	37.5	50.0	12.5	25.0	37.5	37.5	25.0	12.5
2 採算	37.5	50.0	12.5	25.0	12.5	75.0	12.5	0.0	12.5	62.5	25.0	△ 12.5
3 仕入単価	75.0	25.0	0.0	75.0	75.0	25.0	0.0	75.0	62.5	37.5	0.0	62.5
4 従業員数					12.5	75.0	12.5	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り					0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		50.0	37.5	12.5		37.5		75.0	25.0		0.0	75.0		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	25.0	12.5	0.0	37.5	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	0.0	0.0
2 大企業進出による競争激化	0.0	12.5	0.0	12.5	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	12.5	12.5
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	0.0	0.0
4 原材料高及び不足	37.5	37.5	12.5	87.5	11 需要の停滞	0.0	12.5	12.5	25.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	37.5	12.5	25.0	75.0	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	12.5	12.5	無回答	0.0	12.5	25.0	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・物価高騰、品不足で受注に影響。
- ・コロナによる休業で更なる人手不足。
- ・高齢化と中堅、若手の人手不足。
- ・人手不足による災害時の対応難。
- ・中途人材採用と物価高騰に対する顧客の理解を求める対応。

- ・物価上昇するも、労務単価は依然安いまま。
- ・毎月銅線の値上がりが生じている。
- ・材料の高止まり感、一時期の品不足解消。
- ・瓦の需要の大幅縮小に加え、4月に続き10月にも価格改定。お客様に価格転嫁を理解いただけるか。
- ・原油高の影響による建築材料の値上がり。
- ・燃料費高騰による影響大。

※R4年4月より石州瓦産業コロナ禍対応緊急支援事業補助金開始。

《卸・小売業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年4～6月)と比べた 今期(令和4年4～6月)の状況				前期(令和4年1～3月)と比べた 今期(令和4年4～6月)の状況				今期(令和4年4～6月)と比べた 来期(令和4年7～9月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	29.4	23.5	47.1	△ 17.6	41.2	17.6	41.2	0.0	23.5	35.3	41.2	△ 17.6
2 採算	29.4	35.3	35.3	△ 5.9	11.8	58.8	29.4	△ 17.6	12.5	50.0	37.5	△ 25.0
3 仕入単価	52.9	41.2	5.9	47.1	35.3	58.8	5.9	29.4	58.8	41.2	0.0	58.8
4 従業員数					11.8	88.2	0.0	11.8	11.8	88.2	0.0	11.8
5 資金繰り					5.9	88.2	5.9	0.0	0.0	70.6	29.4	△ 29.4

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		23.5	47.1	29.4		-5.9		23.5	64.7		11.8	11.8		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	35.3	11.8	0.0	47.1	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	11.8	11.8	23.5
2 大企業進出による競争激化	5.9	5.9	11.8	23.5	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	5.9	0.0	5.9	10 事業資金の確保難	0.0	5.9	5.9	11.8
4 原材料高及び不足	29.4	23.5	5.9	58.8	11 需要の停滞	17.6	23.5	5.9	47.1
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	5.9	5.9
6 人手不足	0.0	5.9	29.4	35.3	13 その他	0.0	0.0	5.9	5.9
7 人件費の増加	11.8	5.9	5.9	23.5	無回答	0.0	0.0	11.8	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ 仕入価格の急激な上昇で、販売件数、利益率ともに減少。
- ・ 価格アップに伴う付加価値提供による差別化が課題。
- ・ コロナ感染拡大による需要の停滞。
- ・ 食料品などの値上げに伴う、洋服等の買い控えを懸念。
- ・ 服飾関係の仕入価格が秋冬ものから本格的に値上がり見込み。定価は決まっているため、お客様への影響大。
- ・ 大型店への人気店出店による若者の個店への来店減少。
- ・ 冷凍食品前年比200%以上。一方で燃料価格高騰と猛暑で電気代高騰。
- ・ 中国市場のロックダウンで商品の品薄、営業に支障。納期が提示できないものもある。
- ・ 人手不足。
- ・ 原材料価格高騰に伴う価格転嫁が急務。

《サービス業》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年4～6月)と比べた 今期(令和4年4～6月)の状況				前期(令和4年1～3月)と比べた 今期(令和4年4～6月)の状況				今期(令和4年4～6月)と比べた 来期(令和4年7～9月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	42.9	28.6	28.6	14.3	42.9	35.7	21.4	21.4	0.0	35.7	64.3	△ 64.3
2 採算	35.7	57.1	7.1	28.6	28.6	57.1	14.3	14.3	0.0	50.0	50.0	△ 50.0
3 仕入単価	64.3	35.7	0.0	64.3	57.1	42.9	0.0	57.1	42.9	57.1	0.0	42.9
4 従業員数	/	/	/	/	7.1	78.6	14.3	△ 7.1	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資金繰り	/	/	/	/	0.0	85.7	14.3	△ 14.3	0.0	78.6	21.4	△ 21.4

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		21.4	57.1	21.4		0.0		21.4	64.3		14.3	7.1		7.1

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	42.9	21.4	0.0	64.3	8 設備店舗の狭小・老朽化	14.3	7.1	0.0	21.4
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	7.1	7.1	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	7.1	0.0	7.1	14.3
4 原材料高及び不足	7.1	0.0	7.1	14.3	11 需要の停滞	7.1	35.7	7.1	50.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	7.1	7.1	14.3
6 人手不足	14.3	0.0	0.0	14.3	13 その他	7.1	7.1	0.0	14.3
7 人件費の増加	0.0	0.0	7.1	7.1	無回答	0.0	21.4	57.1	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・ コロナの影響は大きく、早くgotoトラベルを再開して欲しい。
- ・ 市内感染者の増加でエステ、講座のキャンセル増加。
- ・ 一棟貸しの宿泊施設は今後益々注目されることが見込まれる。
- ・ コロナ感染者数の増減が客数に影響。客数を予測できない。
- ・ 雇調金を活用し雇用を維持しているが、現在の状況下で助成金がなくなれば雇用の維持が困難になる。
- ・ 自動車の仕入難。仕入れの見直し。
- ・ コロナでメーカーの来店がないため情報が入ってこない。
- ・ 従業員の退職、人手不足。
- ・ 商品価格の値上げによる受注減少。

《 飲 食 業 》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年4~6月)と比べた 今期(令和4年4~6月)の状況				前期(令和4年1~3月)と比べた 今期(令和4年4~6月)の状況				今期(令和4年4~6月)と比べた 来期(令和4年7~9月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	50.0	16.7	33.3	16.7	58.3	16.7	25.0	33.3	8.3	33.3	58.3	△ 50.0
2 採 算	33.3	25.0	41.7	△ 8.3	41.7	16.7	41.7	0.0	8.3	25.0	66.7	△ 58.3
3 仕 入 単 価	100.0	0.0	0.0	100.0	91.7	8.3	0.0	91.7	83.3	16.7	0.0	83.3
4 従 業 員 数					18.2	81.8	0.0	18.2	0.0	100.0	0.0	0.0
5 資 金 繰 り					8.3	58.3	33.3	△ 25.0	8.3	33.3	58.3	△ 50.0

注) ↑ 増加・上昇・過剰・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・不足・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		8.3	33.3	58.3		-50.0		16.7	50.0		33.3	-16.7		0.0

2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	58.3	25.0	8.3	91.7	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	0.0	8.3	16.7	25.0
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事 業 資 金 の 確 保 難	0.0	8.3	0.0	8.3
4 原 材 料 高 及 び 不 足	33.3	41.7	8.3	83.3	11 需 要 の 停 滞	8.3	8.3	33.3	50.0
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響	0.0	8.3	0.0	8.3
6 人 手 不 足	0.0	0.0	0.0	0.0	13 そ の 他	0.0	0.0	8.3	8.3
7 人 件 費 の 増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	無 回 答	0.0	0.0	25.0	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・ 雇調金を活用し雇用を維持しているが、現在の状況下で助成金がなくなれば雇用の維持が困難になる。
 - ・ 原材料費の高騰を受け、原価率、メニュー、価格の見直し、ロス削減を実施。
 - ・ コロナ感染で休業に追い込まれた店が多数ある。
 - ・ 仕入価格高騰のダメージ大。
- ・ 年配のお客様の来店減少。
 - ・ コロナによる来店客数の減少。